

環境管理会計手法としてのライフサイクルコストリングに関する研究

長 野 史 麻

環境ライフサイクルコストリングは、製品の全ライフサイクルを対象としてコストを把握しようと

する。企業内部で用いられ、企業の環境経営意思決定に用いられる手法であるから、ライフサイクルコストを測定するさいには、必ずしも統一的な測定手法あるいは測定基準を必要とするわけではない。しかしながら、環境管理会計手法として、どのようにライフサイクルコストを測定し、それを環境経営意思決定に役立てるのかを示すことは必要である。そこで、2012年度は、環境管理会計手法としての環境ライフサイクルコストイングにおけるコストの測定手法を明確にした。

ライフサイクルコストの測定手法を検討するために、まず環境ライフサイクルコストイングにおけるデータの収集方法を明らかにした。データの収集方法を検討するさいに有用なのが、同じく製品のライフサイクルを通じて、製品による環境への影響を評価しようとする環境影響評価指標のLCA（ライフサイクル・アセスメント）である。LCAは、製品による環境への影響を評価することにより、ライフサイクル全体における環境負荷削減を意図して開発された手法である。製品のライフサイクルにわたるデータ収集方法についてLCAを参考にしながら検討した。

つづいて、環境ライフサイクルコストイングに関する先行研究を取り上げ、どのように環境ライフサイクルコストが測定されているのかを確かめた。先行研究で用いられている環境ライフサイクルコストの測定手法は大きく2つに分けられる。この違いは、環境ライフサイクルコストイングの基盤にあるLCAを行うさいの環境負荷物質に関するデータ収集方法の違いに起因する。データ収集の違いが、どのようなライフサイクルコストの測定手法の違いとなって現れるのか、先行研究から整理した。

そして、先行研究をふまえ、環境管理会計手法としての環境ライフサイクルコストイングに求められる測定手法を明確にした。この一連の研究活動は、日本管理会計学会2012年度全国大会（於：国士館大学）の自由論題の部において報告するとともに、『経営論集』第60巻第2・3合併号で発表した。

以 上